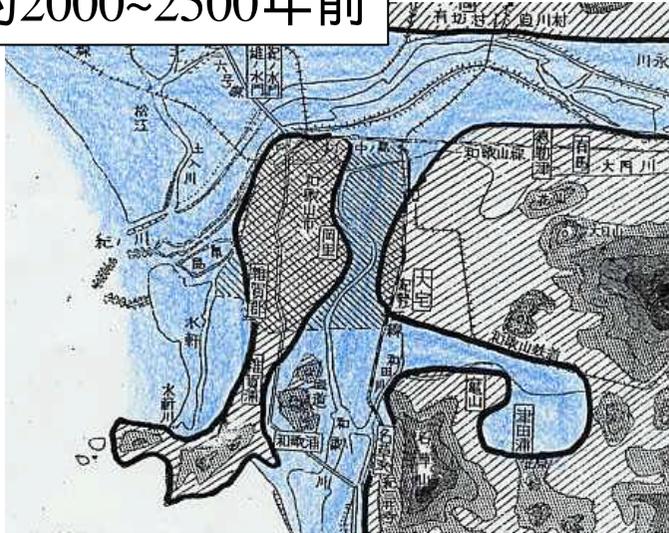
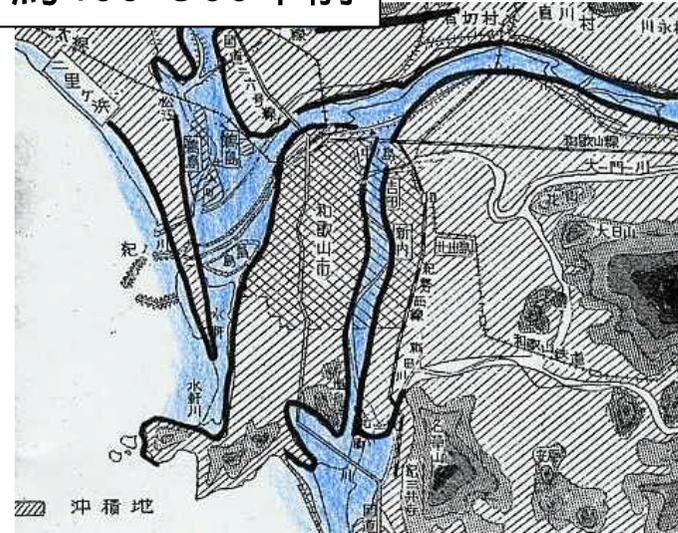


# 紀の川下流部の変遷

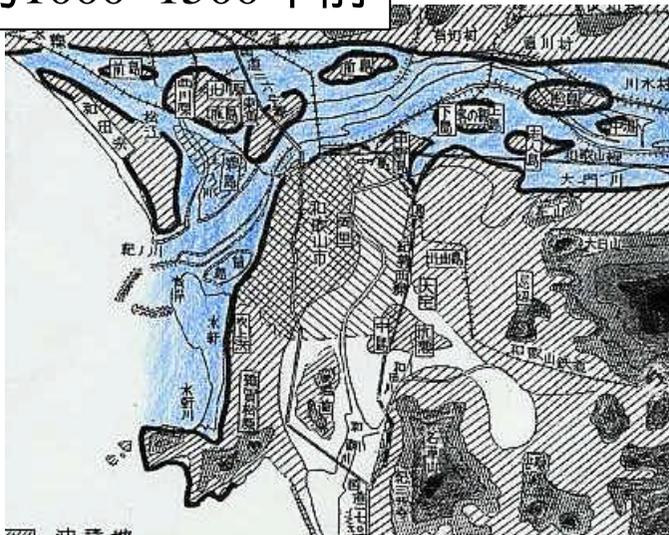
約2000~2500年前



約400~500年前



約1000~1500年前



現代



# 紀の川の災害史

## 昭和以前の記録に残る主な災害

(出典：和歌山県災害史)

701年(大宝元年8月)

続日本紀に紀伊ノ国の被害について記録。

1756年(宝暦6年10月)

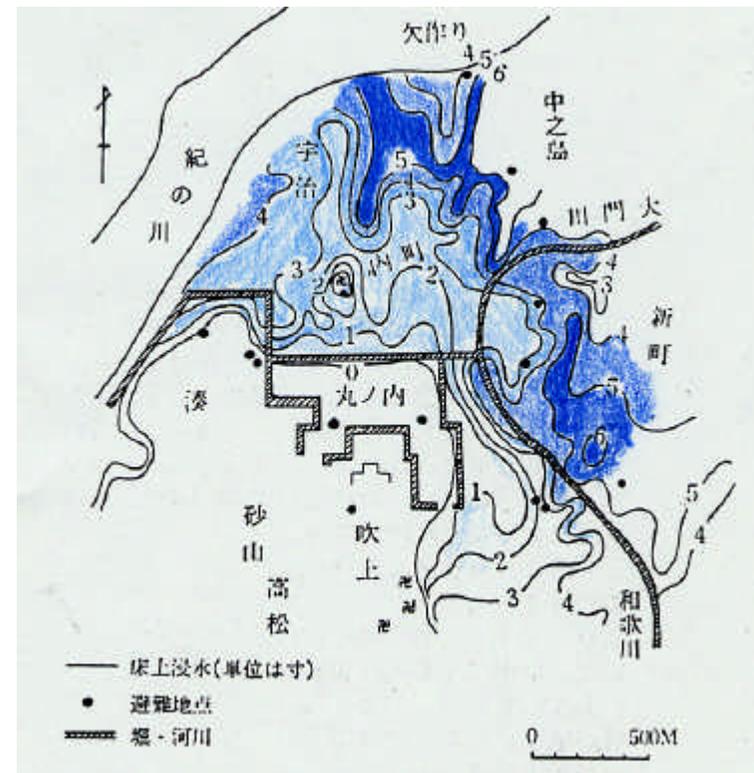
紀の川が増水し、城下の人家の浸水が5.6尺(約1.7m)にも達した。

1889年(明治22年8月)

東是那賀地方、南は紀三井寺まで高地を残してほとんどの地域が浸水。  
和歌山県下の被害は死者1,247人、流出家屋3,675戸、浸水家屋33,081戸と史上空前の大洪水であった。(右図)

1912年(大正元年9月)

台風により和歌山県域で死者17名、全潰家屋84戸の被害。



# 紀の川治水史

紀の川の治水事業が本格的に着手～徳川時代以降

## 徳川時代の治水工事

初代藩主 頼宣時代の築堤



### ・柳堤（現和歌山市）

嘉家作付近から地蔵の辻付近まで洪水防御、城郭防衛を兼ね新堤を築造。堤防両側に柳が植えてあったことから命名。



### ・松原堤（現和歌山市）

堤防の両側に松並木を植え、洪水の流入を防いだと伝えられている。



### ・千間堤（現かつらぎ町）

天端幅3m、長さ350mにわたって築堤